

江戸川台イーストリートプロジェクトSEASON3について

江戸川台駅東口周辺地区の賑わいと魅力を創出するために、江戸川台駅東口商店街の道路を活用するプロジェクトの第3回目を実施しました。

1) プロジェクトの概要

江戸川台東口商店街の通りを歩行者専用道路化し、飲食のためのテーブル・イスなどを設置する空間づくりとして、「江戸川台イーストリートプロジェクトSEASON3」を5月14日（日）に実施しました。※5月13日（土）は雨天のため中止。

今回の社会実験では、賑わい創出のための取組のほか、別開催の「ながれやまオープンガーデン」（14日～16日）に合わせ、「イーストリートフラワーマーケット」と題し、花と緑で商店街通りを彩り、居心地の良い空間を創出しました。

2) 期間中の取組

①店舗がみちに滲み出すことで生まれる賑わい

・ キッチンカー・ 飲食



・ 物販店舗



上記は商店街が歩行者専用道路となった際に、商店街の店舗などの活動が道路上まで滲み出した場合をイメージして実施したものです。

多くの人が足を止め、時に列ができるなど、大きな賑わいを生んでいました。

これは、屋外で営業している店舗は歩行者にとって身近に感じられ、気軽に立ち寄ることができることが理由と推測しています。

②自由に歩ける・滞在できる道路に生まれる賑わい

・ テーブルの設置



・ 食べ歩き



・ ワークショップ開催



・ 江戸川台書店



道路上に滞在できる場所を作ることによって、自由にやりたいことができる空間としました。中には長時間滞在される方もいて、道路がただ「通行する」ためだけの空間ではなく、「時間を過ごす」場所として活用されました。

③居心地の良い空間の創出（みどりで彩られた商店街）

・ストリートファニーチャー

・みどりのあふれる商店街



今回の「花と緑」というテーマに合わせ、物販やワークショップについても花や緑に関係するものとなりました。

先述のとおり、「ながれやまオープンガーデン」に合わせたテーマ設定であるとともに、将来的に商店街通りに植栽を施した場合のイメージを示すことにもつながりました。

なお、植栽を設置するための什器（ストリートファニーチャー）は、設計から設置までの全てを東京理科大学創域理工学部建築学科の有志学生にお願いしました。

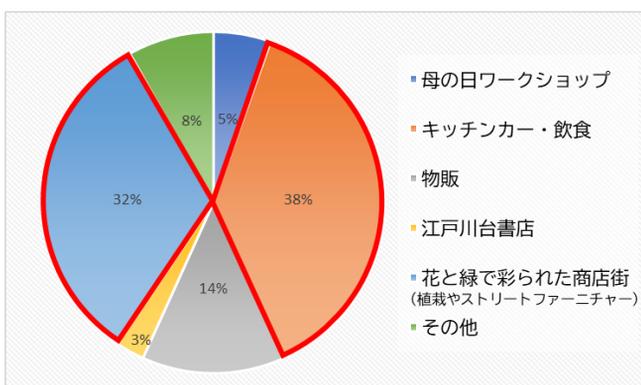
什器の作成にあたっては、学生自らが商店主と意見交換を行い、商店主の意向を反映させていました。

3) アンケート調査

今回の取組に合わせて、選択式のアンケート調査を実施しました。天候の都合で開催日が限られてしまったため回答数はあまり多くありませんが、今回の取り組みについて、来場者の皆様には概ね好意的に受け取られていたことがわかりました。

○アンケート結果（回答数：37件）

Q. 1 今回の取組みで、特に良かったものは何でしたか？



年齢別

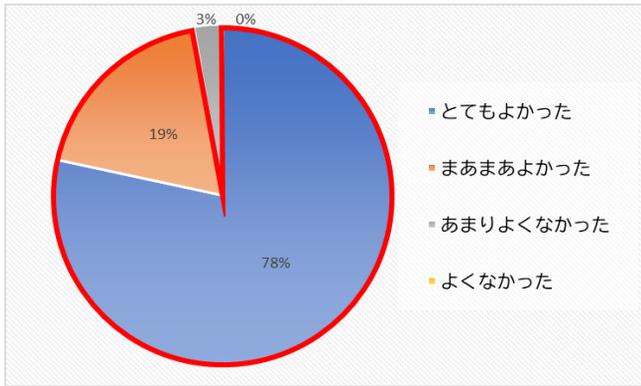
	20歳以下	20~39歳	40~59歳	60歳以上	合計
母の日ワークショップ	0	0	2	0	2
キッチンカー・飲食	0	6	5	3	14
物販	2	0	3	0	5
江戸川台書店	0	0	1	0	1
花と緑で彩られた商店街	1	1	8	2	12
その他	0	1	1	1	3
合計	3	8	20	6	37

今回の取組みにおいては、「キッチンカー・飲食」と「花と緑で彩られた商店街」の2項目が特に好意的に受け取られていました。

「キッチンカー・飲食」については、同日に開催されていた「ながれやまオープンガーデン」に参加するために江戸川台駅東口地区を訪れ、参加前後に食事や休憩をするために商店街に立ち寄った方が多かったことが要因と推測しています。

「花と緑で彩られた商店街」については、先述のとおり花や緑に関心が高い参加者層が多かったことや、ストリートファニーチャーが好評だったことなどが要因と推測しています。

Q. 2 今回の取組みをどのように感じましたか？



年齢別

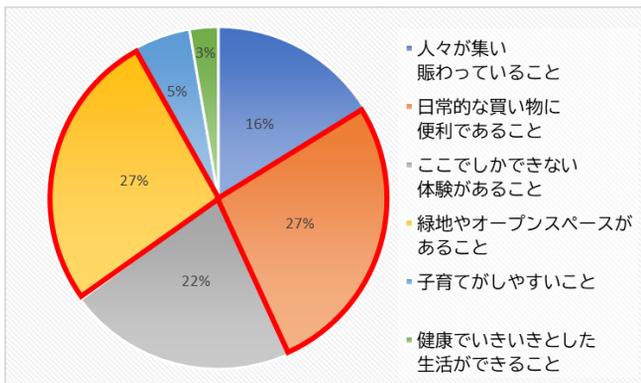
	20歳以下	20～39歳	40～59歳	60歳以上	合計
とてもよかった	3	6	16	4	29
まあまあよかった	0	2	4	1	7
あまりよくなかった	0	0	0	1	1
よくなかった	0	0	0	0	0
合計	3	8	20	6	37

今回の取組みについては「とてもよかった」と「まあまあよかった」が約97%と、概ね好意的に受け止めていただいたものと考えています。

「あまりよくなかった」と回答していただいた方に詳しくお聞きしたところ、「社会実験の開催自体は良いが、そもそも何を目的とした社会実験なのかがわからない」というご意見をいただきました。

今後は、社会実験の周知方法を見直すほか、社会実験の結果報告についてのパネル展示を行うなど、プロジェクトを知っていただくための取組みを検討していきます。

Q. 3 江戸川台駅東口エリアに求めるものは何ですか？



年齢別

	20歳以下	20～39歳	40～59歳	60歳以上	合計
人々が集い賑わっていること	0	2	4	0	6
日常の買い物に便利であること	1	0	5	4	10
ここでしかできない体験があること	1	3	3	1	8
緑地やオープンスペースがあること	1	2	6	1	10
子育てがしやすいこと	0	1	1	0	2
健康でいきいきとした生活ができること	0	0	1	0	1
合計	3	8	20	6	37

江戸川台駅東口エリアに何を求めるかについては、「日常の買い物に便利であること」と「緑地やオープンスペースがあること」に多くの票が集まりましたが、その他の項目にも票が散らばっており、意見が大きく分かれる結果となりました。

「日常の買い物に便利であること」の具体的な意見については、本地域にあったスーパーマーケットが閉店してしまい、日常の買い物が不便になってしまったという声が多く寄せられました。商店街の店主からも、スーパーマーケットの閉店後、商店街の人通りが減ってしまったという意見もあり、日常の買い物需要への対応は、本地域の大きな課題の一つであると考えています。

「緑地やオープンスペースがあること」については、今回の社会実験のように、自由に過ごせる空間があることについての好意的な意見が多く寄せられました。

現状でも江戸川台駅周辺には公園や緑地が多数ありますが、道路についても同じように滞在しやすい場所の一つに位置付けることができれば、こういった需要にも対応できるものと考えています。

4) 今後の課題について

これまで実施してきた社会実験を通じて、道路を歩行者専用道路とすることで、人々が道路に留まり、その結果として賑わいが生まれることが示されてきました。

更に、今回の社会実験では、将来的な道路整備時の方針の一つとして、植栽や統一性を持たせたストリートファニーチャーなどを設置することで多くの人が居心地が良いと感じていただける空間を作ることができ、それが利用者の満足度を高めることに繋がることもわかりました。

反面、社会実験の周知が不十分であったことや、社会実験の目的がまだまだ浸透しておらず、「道路でのイベント開催」として捉えられてしまっていることが課題であると考えています。今後は、これまでの社会実験の趣旨や検証結果を周知し、地元住民との合意形成を図りながら、商店街通りの将来的なあり方を引き続き検討していきます。